REPORT

第2回 日本臨床薬理学会 北海道・東北地方会を終えて

東北大学病院 臨床研究推進センター
石　井　智　徳

会　期：2018年11月10日（土）　12：50〜17：30
会　場：東北大学星陵キャンパス医学部6号館会議室
会　長：石井 智徳（東北大学病院臨床研究推進センター）

1．開催概要

第2回日本臨床薬理学会北海道・東北地方会を2018年11月10日（土）に，東北大学星陵キャンパス医学部6号館会議室において開催した．北海道・東北地区は比較的広い範囲をカバーしており開催場所の設定が難しい面もあるが，北海道地方の会員および東北地区の会員ができるだけ満遍なく集まることができるように，北海道での開催と東北地方での開催をバランスよく行うために第2回は仙台での開催となった．本地方会開催前の世話人会では，次回の開催の会長を選出し福島での開催と，今後の開催は東北地方3カ所開催後，北海道で開催という順番で行うことが決められた．第2回となる今回の地方会でも，第1回地方会と同様に本学会の基本である「薬物療法」と「臨床研究」を2つの柱としてバランスよく配分すること，講演，一般演題，シンポジウムを実施すること，などをプログラム構成の原則としたが，今年は特に臨床研究法の施行など大きなトピックがあり，このようなトピックを中心としたプログラムにすることとした．実際のプログラムを**Table 1**に示す．2題の教育的講演と1つのシンポジウムに加えて一般演題を募集した．一般演題には最初の予定より多く11題の応募があり応募演題全てを採択した．終了後は懇親会を開催し，参加者間で有意義な交流が行われた．

2．講　演

講演は2題行われた．

第1題目は「オープンイノベーションによる新たな医療ソリューションへの挑戦」と題してアステラス製薬から東北大学に今年から赴任された内田渡氏に，医療現場において本当に必要とされている実際のメディカルニーズを如何に掘り起こし，それとマッチする新たな技術を組み合わせ，今後の新たな医療ソリューションを見つけていく方法論を

Table 1　プログラム

12：55〜13：00　**開会の挨拶**
　第2回日本臨床薬理学会 北海道・東北地方会 会長
　東北大学病院 臨床研究推進センター
　　石井 智徳
13：00〜13：45　**講演1**（第1会場）
「オープンイノベーションによる新たな医療ソリューションへの挑戦」
　講演：東北大学（特任教授）　内田 渡
　座長：東北大学大学院医学系研究科 機能薬理学分野
　　谷内 一彦
13：45〜14：10　**一般演題1**（第1会場）
　座長：岩手医科大学医学教育学講座 地域医療学分野/
　　内科学講座 循環器内科学分野/心血管リサーチセンター
　　伊藤 智範
13：45〜14：10　**一般演題2**（第2会場）
　座長：東北大学病院 臨床研究推進センター
　　相澤 千恵
14：15〜15：00　**講演2**（第1会場）
「臨床研究における品質マネジメント」
　講演：東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野/
　　東北大学病院 臨床試験データセンター
　　山口 拓洋
　座長：北海道大学病院 臨床研究開発センター
　　佐藤 典宏
15：00〜15：15　休憩
15：15〜16：00　**一般演題3**（第1会場）
　座長：旭川医科大学病院 臨床研究支援センター
　　田崎 嘉一
　　奥羽大学薬学部 薬物代謝・薬物治療学
　　小池 勇一
16：00〜17：15　**シンポジウム**（第1会場）
「臨床研究法案と関連する研究の実際」
　座長：弘前大学医学部附属病院 薬剤部/臨床試験管理センター
　　新岡 丈典
　　東北大学病院 臨床研究監理センター
　　高野 忠夫
17：15〜17：20　**閉会の挨拶**
17：30　懇親会

著者連絡先：石井智徳　東北大学病院臨床研究推進センター　〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
E-mail：tishii @ med.tohoku.ac.jp
投稿受付2018年12月8日，掲載決定2018年12月25日
ISSN 0388-1601
Copyright：©2019 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics（JSCPT）

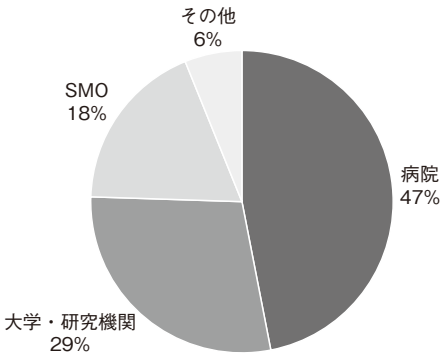

Figure 1　アンケート集計結果（所属）

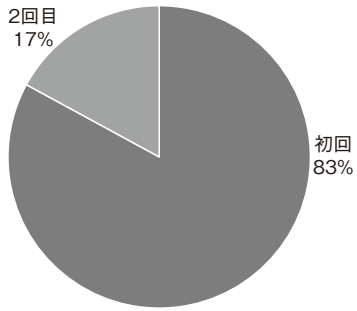

Figure 3　アンケート集計結果（参加回数）

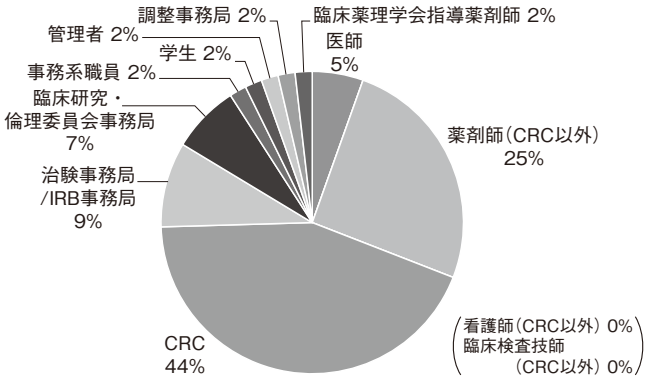

Figure 2　アンケート集計結果（職種）

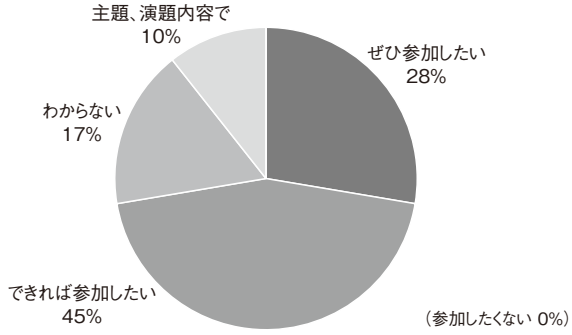

Figure 4　アンケート集計結果（次回参加希望）

講演していただいた．今後の夢が語られ，また日本の弱いとされている部分に関する提言を含んだ講演であり，アンケート結果からも非常に参考になったという回答がとても多い講演であった．

第 2 題目は「臨床研究における品質マネジメント」という演題名で東北大学の山口拓洋氏にご講演をいただいた．非常に内容の濃い講演で，最新のデータマネジメントのトレンドを含んでわかりやすい講演であったが，短い時間での講演をお願いしたばかりに，多くの方々からもっとお話を聞きたいというご意見をいただいた講演であった．

3．一般演題

一般演題は，11 題の発表が行われた．6 題が臨床研究関連の話題，また残り 5 題は臨床薬理学的考察が中心の演題となりバランスよく演題が集まった．当初の予定を上回る演題申込みをいただき，時間の観点から，どうしても会場を二つに分けなければいけなくなった．会場が二つになると聞きたい演題が聞けなくなる問題があり，地方会のような規模の会ではできるだけ避けたほうが良いのではないかと思われ，今後は，行われる学会の時間の設定，演題募集時の発表時間の調整などが検討課題と思われた．

4．シンポジウム

シンポジウムは「臨床研究法案と関連する研究の実際」をテーマにそえて，弘前大学医学部附属病院の新岡丈典氏と東北大学病院の高野忠夫氏を座長に，6 名の演者による発表を中心に実施された．演者には，臨床研究法と実際にかかわりをもつ，倫理委員会事務局，試験責任医師，CRC，安全管理部門など関連する多職種の方より実例を基にお話をいただいた．結果として，アンケートでも今回の学会の中で非常に参考になったという人が最も多いプログラムとなった．臨床研究法はまだ始まったばかりの制度であり，実務的な部分でも変化しているところもあり，今後もしばらくは多くの会員の興味が集まるテーマと思われた．

5．参加者の概要およびアンケート結果

今回の第 2 回地方会の参加者は 89 名であった．当初の予定では昨年の参加者と同等に 100 名程度の参加を目標としていたが，参加者が昨年より減ってしまったのは残念であった．

参加者に対して行ったアンケート結果からの抜粋を図に示す．参加者の所属は，病院からの参加が 47%，大学・研究機関からの参加が 29%となった．今回は SMO から 18%と昨年より多くの参加をいただいた．臨床研究，治験など

は SMO との共同作業も多く発生するものであり，今後も多くの企業関連からの参加と，また，一般演題などの発表もいただければと考えられた（**Figure 1**）．職種別では，CRC の参加が 44％，薬剤師の参加が 25％であった一方，医師の参加は 5％であった．事務局関連の参加が 16％と少し増加したものの，基本的な傾向は昨年と同様であった．もう少し多職種の参加をうながす広報などの方法を考えていく必要があると考えられた（**Figure 2**）．今年の参加者が昨年も参加していたのかどうかを検討した結果をみると，今回初参加が 83％という結果となった．なかなか広域を移動するのは大変で，多くの会員に幅広く議論に参加してもらうことを考えると，やはり場所を変えて北海道・東北地方を大きく回って地方会を開催することの必要性が示されている（**Figure 3**）．

来年以降の地方会参加については，是非参加したいが 28％，できれば参加したいが 45％で，合わせて 70％以上が次回以降も参加したいとの回答であった（**Figure 4**）．自由記載による感想では，時間設定に関して，時間が短くて消化不良という意見が複数見られた．発表演題の内容が充実していたことがこうした意見につながったとも考えられた．

6．今後に向けて

今年は本会との関連で，11 月に開催という変則的な時期での開催となった．昨年に比べ時間が十分にあったこともあり多くの演題の発表をしていただくことができた一方で，時期的には，いくつかの臨床研究関連の会と時期が近くになったこともあり参加するのが難しくなった点はあったかもしれない．また，学会が活発になることで，講演の時間などには工夫が必要になることが予測される．今後も一般演題が増えていくことが考えられるが，開催時間を延ばすなども含め，開催方法には検討が必要な課題が明らかになった．ただ広域にわたる地区であり，なかなか地域を越えて集まるのが難しいところはあるなかで，多くの演題が集まり活発な意見を交わすことができたという点からみても，こうした地方会が開かれること自体が有意義であったと考えらえる．

次回第 3 回会長は福島県立医科大学の稲野彰洋氏と決定した．稲野次回会長を中心として，次回に向けてよりよい企画を考え，本地方会および本学会の発展に寄与できるよう頑張っていきたい．